

住吉跨線橋ほか2橋橋梁補修設計業務特記仕様書

第1章 総 則

第1条 適用の範囲

本特記仕様書は、石巻市が実施する「橋梁補修設計業務」（以下「本業務」という。）に適用する。本業務の遂行にあたっては、契約書によるほか、この特記仕様書に基づき実施しなければならない。

第2条 業務の目的

本業務は、石巻市の橋梁の長寿命化を図るため、橋梁点検等により劣化が認められた箇所の補修設計を実施することを目的とする。

第3条 対象橋梁

本業務の対象橋梁は、表1 対象橋梁一覧表のとおりとする。

通し番号	対象橋梁名	路 線 名
1	住吉跨線橋	中埠橋石巻大橋伊原津一丁目線
2	味噌作橋	大網芝下線
3	金田2号橋	金田4号線

表1 対象橋梁一覧表

第4条 履行期間

本業務の履行期間は、契約締結の日から令和8年2月27日までとする。

第5条 管理技術者及び照査技術者

管理技術者及び照査技術者は、①～③に定める要件のいずれかを満たすものとする。

- ① 技術士（総合技術監理部門：鋼構造及びコンクリート）
- ② 技術士（建設部門：鋼構造及びコンクリート）
- ③ シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）（鋼構造及びコンクリート）の資格保有者

第2章 業務内容

第6条 設計計画

受注者は、契約後すみやかに必要な資料を収集整理し、本業務の目的を理解したうえで、業務に対する実施方針、実施方法、業務組織計画および照査体制等を取りまとめた業務計画書を作成し調査職員に提出するものとする。

なお、調査計画の作成にあたっては、国土交通省が公表している「点検支援技術性能カタログ」に掲載されている新技術等の活用を必要に応じて検討するものとする。

第7条 損傷箇所の確認調査

受注者は、対象橋梁の補修設計に先立ち橋梁各部の形状寸法や損傷状況を確認するとともに、必要となる調査を実施するものとする。住吉跨線橋における外観変状調査及び形状

寸法測定は、夜間に交通規制を行い、橋梁点検車を用いて実施するものとし、交通誘導警備員については1日当たり3人を配置し、列車見張員は1日当たり2人を配置するものとする。

(1) 現地踏査

既存資料の収集・整理を行った後、現地の状況を把握（損傷・劣化の程度、現況交通状況、周辺環境状況、現地調査方法、施工ヤード等）するほか、数量表の記載事項を現地にて確認する。

(2) 外観変状調査

既存資料と現地状況との整合性を確認するほか、近接目視を行う。調査は全スパンについて地上及び点検車等を用いて行い、場合によりハンマーによる打音調査を行うなど全体の損傷状況の傾向を把握する。

(3) 形状寸法測定

補修設計に必要となる形状寸法については既存図書で不明な箇所では計測可能な箇所の形状寸法を測定する。

(4) 損傷図作成

現地調査結果をもとに、損傷図の作成を行う。

(5) 報告書作成

調査業務の成果として、現地調査、損傷状況などを報告書として取りまとめる。

第8条 補修設計

橋梁の補修箇所について下記のとおり補修設計を実施し、設計計算書、設計図及び数量計算書等を作成するものとする。

補修設計では、応力計算が必要となる部材等に対して、必要な設計計算を行うものとする。また、補修工事の発注積算に必要な設計図面を作成し、数量算出要領に従い、工種毎に数量計算を行うものとする。

(1) 対策工法の検討

対象橋梁の損傷に対して、損傷種類や損傷要因別に要因除去を含めた補修対策工法を検討する。工法選定にあたっては、構造特性、施工性、経済性、維持管理との整合、NETISに掲載されている新技術・新材料等の活用など総合的な観点から技術的特徴、課題を整理し、評価を加えて比較一覧表を作成し選定を行う。

(2) 住吉跨線橋補修設計

住吉跨線橋について上部工補修設計、下部工補修設計、鋼橋塗装設計、伸縮装置補修設計、支承防錆設計及び橋面防水工設計を行い、設計計算書、設計図及び数量計算書を取りまとめる。

(3) 味噌作橋補修設計

味噌作橋について上部工補修設計及び下部工補修設計を行い、設計計算書、設計図及び数量計算書に取りまとめる。

(4) 金田2号橋補修設計

金田2号橋について下部工補修設計を行い、設計計算書、設計図及び数量計算書に取りまとめる。

(5) 照査

対象橋梁の設計内容について、適切性及び整合性に着目し照査を行う。

(6) 報告書作成

設計業務の成果として、成果概要書等の取りまとめを行う。

第9条 施工計画の策定

補修設計に基づき橋梁毎に工程計画、施工要領及び施工計画図を作成し、施工計画を策定するものとする。

第10条 概算工事費の算定

補修数量、施工計画に基づき橋梁毎に概算工事費の算定を行うものとする。

第3章 その他

第11条 関係機関協議資料の作成

調査設計に必要な関係機関との協議及び諸手続き、資料収集及び協議資料の作成を行うものとする。

第12条 打合せ協議

打合せ協議は、以下の区切りにおいて行うものとし、回数は4回とする。

- ① 業務着手
- ② 中間 2回
- ③ 成果物納入

業務に関する打合せ記録の整理は、受注者が行うものとし、打合せ後すみやかに提出するものとする。業務着手時および業務完了時は、管理技術者が立ち会うこととする。

第13条 成果品の提出

本業務の成果は、以下のものを提出するものとする。

- ① 報告書（A4版製本：2部）
- ② 電子データ（CD-R：1式）
- ③ 縮小図（A3版製本：2部）
- ④ その他、調査職員が指示した資料

第14条 貸与資料

委託者が貸与する資料は、次のとおりとする。

- ① 橋梁点検報告書
- ② 石巻市橋梁長寿命化修繕計画（平成31年3月策定、令和7年3月改定）
- ③ その他業務履行上必要な発注者の所有する資料

第15条 行政情報流失防止

受託者は、本業務履行に際して知りえた全ての行政情報については、適切な流失防止対策を講ずるものとする。

第16条 疑義

受託者は、業務の実施にあたり疑義が生じた場合には、速やかに調査職員と協議するものとする。

第 17 条 暴力団の排除

受注者が、この契約の履行期間中に石巻市入札契約にかかる暴力団等排除要綱（平成 20 年石巻市告示第 268 号。以下「排除要綱」という。）別表措置要件に該当するときは、契約を解除することができる。

- 2 受注者は、排除要綱の規定に基づく指名停止措置期間中の者並びに石巻警察署長又は河北警察署長（以下「管轄警察署長」という。）から排除要綱別表措置要件に該当する旨の通報を受けたものを石巻市が発注する建設工事等にかかる下請負人（一次及び二次下請け以降すべての下請負人及び資材、原材料の購入契約その他契約の相手方を含む。以下同じ。）又は再受託者（再受託以降のすべての再受託者を含む。以下同じ）としてはならない。
- 3 受注者は、指名停止措置期間中の者及び管轄警察署長から排除要綱別表措置要件に該当する旨の通報を受けたものを下請負人及び再受託者（以下「下請負人等」という。）としていた場合は、当該下請負人等との契約の解除を求めることがある。
- 4 受注者は、この契約において、暴力団員及び暴力団関係業者（以下「暴力団員等」という。）による不当要求又は妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で、速やかに管轄警察署長に通報及び捜査上必要な協力（以下「警察への通報等」という。）を行うこと。
- 5 受注者は、（４）により警察への通報等を行った場合には、速やかにその内容を記載した文書（石巻市が発注する建設工事等における不当介入マニュアル第 2 第 2 号に定める別紙様式（石巻市ホームページに掲載））により建設工事等担当課長に報告すること。
- 6 受注者は、下請負人等に対しても、（４）及び（５）と同様の措置を指導すること。
- 7 受注者又は下請負人等が、暴力団員等による不当介入を受けたことにより工程等に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、建設工事等担当課長と協議を行うこと。
- 8 市長は、受注者が（４）及び（５）の内容について怠ったことが確認されたときは、指名停止措置を行うものとする。

第 18 条 その他

本業務請負契約における設計変更については、宮城県土木部の「設計業務等委託契約における設計変更ガイドライン（平成 26 年 11 月以降）平成 29 年 10 月以降」を準用するものとする。